

主催 / 浜松市教育委員会 主管 / 浜松社会人
演劇連盟 協賛 / 浜松市連合青年会 後援 / 浜松
演劇観賞協議会

第9回 浜松市芸術祭
演劇部門

とき・11月24日(日)午後1時開演 ところ・市民会館

第九回演劇公演によせて

浜松市長 平山博三

浜松市芸術祭は今年九回目を迎えました。年々歳々日を追つて、全市挙げてのこの秋の行事が盛大になつてまいりましたことは喜びに堪えません。

特に演劇部門は、自立、職場、青年会が一体となつて平素から強力な演劇運動を行なつてきたその収穫の季節ともいふべきで、働く若い人たちの不断の努力研鑽の賜ものであります。これらの人々が、浜松市における文化向上の旗手としての役割りを充分に果たしていることには、市民の皆さんも深い理解をもつて御支援下さることと確信いたします。

演劇は今日では一般教養の一部門として、狭い芸術の門から開放されていますが、これを実践することによつて、人間性を豊かにし、長い時間をかけた稽古の成果を上演して、多くの人々に演劇の豊かな稔りを共に分かち合おうとするアマチュア演劇が、更にこの浜松で発育を遂げ、ますます文化都市としての発展に寄与されることを、心より希望いたします。

市民演劇の開幕を迎えて

浜松市教育長 皆川英夫

第九回の芸術祭も美術展や音楽も終わつて次はこの演劇です。今年は自立劇団三つ、職場一つ、それに青年会代表の一つが加つて午後一時からでは時間の割りふりが心配なほどの盛会です。

働く人たち、年若い市民たちの、芸術活動へのさかんな意欲を心から喜ばしく思い、市民生活の美わしい開花―芸術祭の一日を観客の皆さんと共に力づよい拍手を贈ります。

素人のまじめさと、真剣な稽古の仕上げとは、よし未熟さが残つていても観客の好意と支援が期待されますし、そこにこそ舞台とのあたゝかい気持ちの交流が生まれます。

芸術祭の演劇万才。

プログラム

☆ 式次第

開会の辞
挨拶
祝辞
開演
閉会の辞

☆ 開演日程

1. ピエール・パトラン先生 (鈴木力衛翻案).....1.00~2.45

劇団 だるま

2. 廃園 (中沢幸夫作).....3.00~4.20

劇団 若いむれ

3. 喜劇 むこえらび (青江舜二郎作).....4.35~5.45

本田技研演劇部

4. 白夜 (寺山修司作).....6.00~7.00

NHK 浜松放送劇団

5. 姨捨 (梅林重太郎作).....7.15~8.15

新津青年会演劇部(浜ツ子)

鈴木力衛翻案

ピエール

パトラン先生

劇団だるま

スタッフ

演 出……………古賀昭隆
 助 手……………増井浩子
 制 作……………石川哲
 助 手……………猪狩峰子
 舞 臺……………山下毅
 監 手……………丸木登志子
 助 手……………前田勝
 装 置……………長谷喜代治
 衣 装……………水野弥栄子
 照 明……………市川関二
 衣 装……………沢野順子
 山 中……………山中ひさの
 坂 本……………坂本とし
 近 藤……………近藤光徳
 市 川……………市川乃婦子
 丸 山……………丸山茂子

キャスト

ピエール・パトラン(代言人)……土師健司
 ギニューメット(その妻)……佐野洋子
 ギョーム・ジョソーム(ランチャ屋)……岡本一孝
 チポー・アニユレ(羊飼い)……服部茂喜
 裁 判 官……………鈴木真澄

中沢幸夫・作

廃園 一幕

劇団若いむれ

スタッフ

演 出……………中沢幸夫
 演 出 助 手……………鈴木みゆき
 舞 台 美 術……………松居由博
 効 果……………中村英勝

キャスト

大崎一広……………武井紀夫
 大崎美沙子……………鈴木捷子
 大崎二広……………須山孝夫
 大崎三広……………鈴木純二郎
 看護婦信子……………横井義恵
 杉子……………徳井松子
 小口事務長……………森良雄
 村田直美……………福田しのぶ
 片 野……………長谷川憲夫
 刑 事……………石津義之

■なぜ創作劇をとりあげたのか

ことしのレパートリイのために、数多くの台本を検討しましたが、殆んど的一幕物が小人数の人物で構成されている点で、適当なものを見出せなかったのです。折角、芝居が好きで集まっているのに、それだけの人たちをフルに出場させられないというのは残念ですし、みんながどんな小さな

青江舜二郎・作

喜劇「むこえらび」一幕

本田技研演劇部

スタッフ

演 出……………河合勇吉
 舞 台 監 督……………小平勝男
 製 作……………牧野照彦
 装 置……………笠井弘弥
 照 明……………富田潤一
 効 果……………伊熊広至
 衣 装……………畔上カツヨ
 衣 装……………広田滋
 衣 装……………木本肇子
 衣 装……………岩切考子
 衣 装……………小沢網代

キャスト

長 者……………有海善博
 娘 者……………袴田のり子
 召 使……………伊熊広至
 女 中……………中村一男
 女 中……………近藤愛子
 女 中……………田内佐智代
 女 中……………北川初一郎
 女 中……………寺田昭
 女 中……………渡辺泰男
 女 中……………滝上勝義

か い せ つ

その昔、腕のある代言人として、あがめられていた、ビエール・パトラン先生も、今では逆に、「待ちぼうけの三百代言」といわれる様に落ちぶれていました。

持ち前の弁舌と機智をもてあました、パトラン先生は、ある日、とんでもない計画をたてました。さて、その計画とは……

この劇は、フランス中世末期に書かれた、ファルス（笑劇）です。

台詞の楽しさ、仕草の面白さ、に重点をおき、見ていただければとおもいます。

劇団だるまにとって、この「ビエール・パトラン先生」ほど関係の深い劇はありません。劇団だるまが「サークルだるまの会」として、誕生した四年前、だるまが最初にケイコに入ったのが、この「ビエール・パトラン先生」でした。不幸にして、その時は、上演不可能となり、一度も陽の目を見なかったのですが、その後、毎年、脚本選択の時期になると、必ず、誰とはなしに、「ビエール・パトラン先生」の脚本が提出され、討議されて来ました。

現在、創立当時の会員はほとんど姿を消しましたが劇団だるまの手で、「ビエール・パトラン先生」の上演できることは、この上ない喜びとしております。

最後に、上演に際し、劇団たんぼの協力に対しあつく感謝致します。

劇団だるま上演脚本

34・11月「おらあおめえのもぐらもち」

35・2～5月「泥棒仙人」

35・11月「ありふれた奇跡」

36・3「乞食と夢」

37・3「乞食の歌」

37・11「夕鶴」

38・11「ビエール・パトラン先生」

役でも受持って、劇団全体で取組める作品こそ、自立劇団に一番適したものだと考え、それぞれ個性をも一応念頭に入れた上でドラマを構成しようというのが、これをつくった理由です。

けれども総勢十名のキャストを組んで稽古に入ってみると、これは仲々しんどいことになりました。仕事や家庭の事情がからみ合い、一貫した稽古は思うように出来ぬ状態の中で、それでも一同長セリフのやりにくい芝居をつくりあげて来ました。まだまだ稽古不足ですが、この芝居を通して「人間」をみつめようとした努力は、ぼくたちの劇団にとって決して小さい収獲ではありませんでした。

■なにを考えようとしたのか

「廃園」は敗戦後間もない昭和22年を背景にして、戦争の影響から脱けきれぬ一つの家族を中心にしてありますが、これは決して、正面切った戦争批判の劇ではありません。「何かに負けてしまった人間」のいくつかのタイプを描いたもので戦争でなくて社会の変動や天災地災に直面した人間を、現在の時点で捉えてもこの主題は同じことです。勿論、戦争の罪悪についても触れていますがそれは戦争という狂熱の時代が人間を変えてしまからです。しかし、戦後、一変して戦争を否定した御都合主義の人物が登場して来ません。戦争が間違っていたことは分っても、戦時中の生き方自体は、それ以外に他の方法がなかったことを認めているからこそ、戦後の混乱の中で彼らは生きる道を見失ったのです。ミリタリズムの罪悪などという手垢のついた批判でなく、これは飽迄も人間のドラマであり、個人の悲劇です。「廃園」はそんな風にみていただきたいのです。

魔のごときもの……河合勇吉
協力するグループ……専売浜松工場
国鉄浜松工場

梗概

富貴な人を長者という。長者には一粒種の娘があった。もうそろそろ婿をもらう年頃であるが、この娘、学問が嫌いで気が強く乱暴なことが大好きで、とりわけ男をやっつけるのが何より楽しいという性格の主。今まではどんなわがままも聞入れて来たが、日々老てゆく親心としては、一日も早く跡取りを決めて、孫の顔を見たいというものそこで召使の者に言い含めて、森の中を通る人々の性格を曲げようとし……

娘 パパ。どう？見つかった？

長者 ふむ、この四人の衆にはみなそれぞれ見どころがあるぞ。

ママ。四人も私のおむこさん？ いいわ

ア！ つまり四人でやっとな人前ってわけね。それなら一山いくらじゃないの……

e . t . c



寺山修司・作

白夜 一幕

NHK浜松放送劇団

スタッフ

演出	村越一哲
舞台監督	山本照子
装置	松居由博
	永田修一
	大庭章
照明	戸塚進也
	齊藤千春
小道具	佐藤美恵子
	小杉和子
衣裳	光墨春江
効果監督	村松勇
効果	金原多美枝
	藤田充代
	馬淵美穂子
記録	石野昌子
	村木早苗
キャスト	
猛夫	中村昂平
宿屋の主人	岡本和孝
女主人	竹口絹枝
女中	松山ひろえ

梅林重太郎・作
新津青年会・脚色

「姨捨」 一幕

新津青年会

演劇部「浜ッ子」

スタッフ

演出	小楠一
舞台監督	山村勇
助監督	根木保幸
大道具	内山寿孝
小道具	小楠良一
照明	阿部誠一
効果	小楠寿夫
衣裳	鈴木つたえ
化粧	小梢しずよ
キャスト	
百姓	矢五助
その妻	かよ
息子	吉松
百姓	貴平
その母	松お婆
野武士	虎太郎
	井口郷光
	中村さだ子
	小楠護
	小楠豈位
	内山清美
	松本勝幸

既に映画、演劇に再三紹介されてきたものでは
ありますが、忘れ去られる様な遠い昔、私達の祖

かいつ

NHK放送劇団

エピソード 1

むずかしい、むずかしいを連発しながら役に取
り組むN君「結局、僕はノーマルなんだ。」

エピソード 2

ト書きの(フタぶり)にすっかりくさってしま
った容姿端麗のTさん「フタぶりとは、魅力あふ
れる女に対する、男の本心のテレかくしなり。」

!!お知らせ!!

新ネーム誕生

私達新津青年会の演劇も諸先輩の努力により、
誕生して早や十年、これを機に茲に

「浜ッ子」

と命名し、これから先我々「浜ッ子」はどんなに
荒い波風にも負けず、立派に育っていく様力強く
進む気持で一杯ですから、今後とも皆様方の心か
らなる御指導御愛顧をお願いします。

劇団「新からつかぜ」

私達は演劇を通じて、自分の置かれた立場を認
識し、失われた、人間性の信頼回復と、よりよい
社会をつくる為に活動しています。仕事のこと、
恋のことなど働く仲間達の苦しみ、喜びを共に語
り合おうではありませんか。

意欲にもえてるあなたよ!

是非一度遊びに来て下さい、豊かに美しく、生き
ることを欲している、君、あなた、私達はあな
た達の出現を待っています。

浜松市田町 玄忠寺内 田町幼稚園

か い せ つ

崖上の安ホテルの三階の空部屋。

一人の客があった。灰上猛夫である。

久方弓子という女を知りませんか、久方弓子という女が泊った事はありませんか。

まるで道でも聞く様に訪ねまわって——、遂にこんな所迄来てしまったのだ。

「夢しか信じない者は生きてはゆけないのかも知れない。しかし、夢がなかったら生甲斐なんて持てるものだろうか……。」

安ホテルの老人は笑った。

「人間の恋愛なんてものは、全くむなしいものでしたね、それは一瞬の風にすぎないものでしたよ。」

外は真昼の様に明るい夜である。まるで瞑想を吹きちぎるが如く潮風がうなり叫喚するが如く海が鳴る。ここ北海道釧路の北海岸。

「とうとう、希望という一番重い病気にとりつかれてしまったんだ。」

老人は猛夫の寝顔につぶやいた。

* * *

此の戯曲のムードを盛り上げている効果に、放送劇団としての特徴を生かせたらと取り上げてみました。



先が残していった悲しい伝説「嫉捨」を私達はここに改めてとりあげてみました。

物語は今をさかのぼる千年の昔、つまり栄華をきわめた平安、藤原から戦国に移るただれる様な時代に戻ります。

都を中心にした貴族政治は自からその方向を失い、次第に政治の実権が離れるとともに治安は乱れ悪が横行し巷には末法の思想が広まり、説経成仏を願う声とともに人々の生活は日に日に貧困と混乱に追いこまれていきました。

一方地方では豪族が台頭割拠し、互いに勢力を争う中で長い間の荘園制は崩れ去り、農民の生活はこれら豪族の庄政のため極度の貧困に追い詰められて「親迄捨てる」という地獄絵に変っていききました。

この様な中で物語は進められますが、そこには「生きたい」という人間の最期の叫びがあった筈であり、劇中百姓貴平の母「松お婆」の「それでもわしは死にとりうないわ。」という悲痛な叫びが皆様の御耳をとらえることと思えます。

私達はこの死の瀬戸際に追いつめられた、貧しい農民の生活の中によみがえる「人間の生命への執拗な願い」をこめて、じっとその姿と社会をみつめ、長い間に築かれた私達の生活の根底に流れるものを皆さんと共に探っていききたい。

時代 昔々ずうっと昔。そう、ただれる様な藤原

時代の末期とでもいうのでしょうか。民百姓は貧苦にあえぎ、そして地方の豪族達は庶二無二力を蓄え、折あらば頭角をあらわそうと爪をとぐ、そんな時代のお話です。

都を遠く離れた草深い田舎。秋の取入れもすっかり終り、もう冬の足音も聞こえ始めたある夜のことです。

挨 拶

今年度はどうあっても芸術祭に参加するんだとハッスルした本田技研演劇部。三月の「子供のつどい」に人形劇「いちばん強いお友達」で参加し五年間のプランクという大きな問題を、ある程度解決したというもののやはり、この劇の稽古を進めるにつれ次々と障害が出て来ましたが「無から有を造り出す」一念できょうここに上演出来ますことは部員一同、至上の喜びとするものです。

やるもの総てが未経験であるゆえに舞台度胸も皆無に等しい我々ですが「練習して楽しみ、上演して楽しみ、観て楽しむ」というモットのもとに進めて参りましたゆえ、これからの七十分間をやるもの観るもの共々、心おきなく過ごそうではありませんか！

この劇を完成するにあたり国鉄浜工演劇部、並びに浜松専売演劇部の方々には、終始なみな心から御援助と御配慮をいただき、部員一同心から感謝する次第です。

われらの仲間・若いむれ

「オイッスー。」：M君。「コンバンワッ、ウアッ。」：L嬢。「おはようさん。」：I兄。「こんばんわア。」：Pちゃん。「ヌーッ。」：S某。「どうもォー。」：Xさん。「やあー、ごころうさん。」：N氏。etc……。

尾張町公民館。月・木・夜六時半。わたしたちの稽古場は雑多な挨拶、掛声で、次々に登場する、それこそ雑多な連中で回転していく。目まぐるしく。華やかに、深く。ゆるやかに。——わたしたちの仲間に入って一緒に芝居をやってみようという方はぜひお訪ね下さい。



私たちの演劇のあゆみ

浜松市芸術祭演劇部門は、昭和三十年の第一回芸術祭以来ひきつづいて開かれ、今年には九回目を数えるに至りました。演劇隆盛への道をひらいた浜松市のアマチュア演劇運動は、地方文化向上の一翼を受け持つここに輝やかしい伝統を築き上げました。もちろんプロ劇団と違ってアマチュア演劇には、さまざまな制約があります。その最も大きなものは、劇団員の職場の仕事や家庭の事情などによる変動です。自立劇団の場合は特に経済的な基盤を持たないことも、活発な活動をさまたげる悩みです。第一回芸術祭からの消長をふり返ると、それに参加した団体の活動状況がよくわかりますが、それらの演劇サークルの浮沈や新旧の交代、更に制約に耐えて活動をつづけている団体の歴史は、浜松アマチュア演劇史の一ページを飾って、わたしたちの先輩の努力と青春の情熱を物語っています。

浜松アマチュア演劇を語る上に忘れてはならないのは、劇団創立と同時に第一回芸術祭に参加、昨年迄八回連続して参加して来た劇団からつかぜです。劇団からつかぜは市芸術祭と共に、浜松演劇運動の歴史を書き綴って来たのです。この数年間にいくつかの自立劇団や演劇サークルが生まれ、そして消えて行きましたが、劇団からつかぜはさまざまな困苦と制約をのりこえて野心的な上演を行なってきたのです。たまたま今年には劇団を発展的に解消して新たに劇団新からつかぜを結成したため、芸術祭に参加できまらなかったが、この不参加を惜しむのは演劇の仲間たちばかりではありません。自立劇団では次に、サークルだるまから成長した劇団たるまを注目すべきでしょう。「夕鶴」「ビエール・パトラン先生」などの名作大作と取り組むこの劇団の今後の活動は、大いに期待できるものがありますが、定期的な言学校などの慰問公演の意義も決して小さなものではありません。

現在浜松の自立劇団にはこの二つのほかに昨年夏結成された劇団若いむれがあります。昨年はNHK放送劇団の援助を受けて「鉄」を上演しましたが、今年は創作劇を取り上げて劇団の基礎を固めようとしています。今年のはじめ、これら三劇団は二回の移動公演を合同で行なったほか、杜演連として子どもを集いひらきました。そうした実践的演劇活動は今後更に協力して行なうことによって、演劇文化を高める役割を果たすことでしょう。

またNHK浜松放送劇団は、他の自立劇団とは異った立ち場にあります。スタジオオから進出して一般公演に力を注ぐとすれば、そのすぐれた技術によつてアマチュア

演劇界に及ぼす影響も著しく大きくなると思われれます。

自立劇団とくらべて職場演劇は、アットホーム的なやり易さがありますが、一つの職場で演劇部をつくることは人員の点では、決して容易ではないのです。大きな会社工場なら演劇部に入る人たちの多いのは当然ですが、だからといって小さな職場にそうした動きが生れないとは言えません。問題は、共通したパーセンテージではなくて演劇に対する関心の濃さにあるでしょう。現在、職場では国鉄浜松工場が最も強力ですが、常時活動をつづけるには、あの職場の規模からいって充分な人員を擁しているとは言えません。しかし、この演劇部は芸術祭参加の経歴も古く、今後も浜松の職場演劇の中心を占めることと思います。

国鉄と隣する専売浜松工場も演劇部の伝統は古いのですが、女子従業員の多い職場だけにレパートリーを取上げるとなると困難で、これ迄にも国鉄工場と協力して制作している場合が多く、この二つの職場につく本田技研演劇部もやはり、部員の不足から充分な活動が出来にくい状態です。が、今年のような三者連合という形をより強力に押し進めれば、職場演劇は横のつながりを持つことによって、大いに今後を期待することが出来るでしょう。近接する職場、事業形態の似た系統の職場などが、それぞれ手をとり合つて演劇活動を活発にすることは、職場演劇における弱体をカバーする最良の方法です。その意味で浜松の職場演劇はまだその力を充分に發揮してはいません。数多くの職場から盛り上がる演劇活動は自立劇団をも鞭達し、やがては浜松のアマチュア演劇を形の上の隆盛さではなく、本質的に充実させて行くことでしょう。

同じことは青年演劇にもいえます。地域の文化的な催しや祭礼など青年会の仕事はたくさんあります。演劇活動はその一つですが新津部会、東部部会のように毎年新しいレパートリーを取り上げている青年会は貴重な存在です。今年の青年演劇コンクールは不振でしたが、個人的な結びつきや、生れ育つた土地に住む同志のつながりの点では、職場演劇よりもなおアットホームな集まりなのですから、演劇を理解し普及させることの意義を、もう少し考えて、浜松全体の青年会の大きな演劇運動を打ち出して欲しいものです。芸術祭の歴史をふり返ると、一時期非常に活動した団体がありますが、そうした団体が引きつづいて演劇と取組めない理由は、それぞれの場合によって事情が違ふことでしょう。しかし、古く美しい器に新しい酒を注いで、先輩の努力を忘れることなく引継いで行くことはわたしたちにとってやり甲斐のある仕事です。演劇は決して僅かの人たちだけのものではありません。多くの人がそれを行ない、そして数多くの人たちにそれを分け与え、一人でも多くの人に演劇の喜び、楽しさを知って貰うために、わたしたちは来年も次の年も、そしてそれから先の年ごと、わたしたちの活動をつづけて行こうとしています。